

⑤金沢港南地区無量寺ふ頭における既存岸壁耐震改良事業と 金沢港機能強化整備事業との連携

受賞機関 国土交通省 北陸地方整備局 金沢港湾・空港整備事務所
国土交通省 北陸地方整備局 新潟港湾空港技術調査事務所
石川県 土木部 営繕課
石川県 金沢港湾事務所

キーワード 既存岸壁耐震改良、クルーズ船の受入環境改善、
整備期間の大幅な短縮、賑わいの創出

全建賞審査委員会の評価ポイント

既存岸壁の耐震改良と港の機能強化整備を連携して一体的に行い、ふ頭の機能強化や新たな賑わいの創出を行う取組。耐震強化岸壁の整備について、通常設計後に行う施工方法の検討を設計と同時並行で行うことで合理的な構造断面及び施工手順とし、整備期間の大幅な短縮された点や、港におけるイベントで成果が明確に現れている点が評価された。

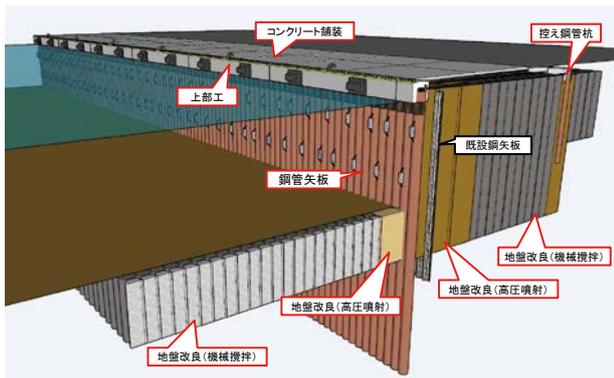
1. はじめに

金沢港は、近年、コンテナ貨物の取扱量やクルーズ船の寄港数が増加しており、環日本海地域の海の玄関口として、その重要性が一層増している。

無量寺ふ頭は、供用開始から40年以上が経過した岸壁の老朽化に加え、地元からはクルーズ船の受入環境の改善や金沢港には耐震強化岸壁が未整備であることから、大規模地震時の緊急物資輸送拠点としての機能の強化について、早急な対応が求められていた。

2. 事業の概要

国直轄事業では、老朽化施設の更新にあわせ、耐震改良を行うとともに、クルーズ船接岸機能を併せ持つ岸壁の再整備を行った。液状化対策としての地盤改良工法が複数（陸上・海上各2工法）あることに加え、既設構造物撤去も同時並行で行うため、構造断面及び施工手順は複雑であった。



既存岸壁耐震改良事業構造図

このため、施工方法の検討と設計を同時並行で行うこととし、設計段階から、現地の施工性を踏まえた合理的な構造断面及び施工手順を検討した。この結果、既設鋼矢板背後の地盤改良を先行して施工することで既設控え工撤去時の安定性が確保され、海側・陸側の交互に改良が可能となるなど、当初5年程度と想定されていた整備期間を約3年と大幅に短縮でき、石川県の事業と合わせ

て、令和元年度に完了することができた。

石川県による金沢港機能強化整備事業では、国直轄事業と連携し、CIQ機能を備えた金沢港クルーズターミナルなどを整備することにより、隣接する戸水ふ頭との2隻同時の大型クルーズ旅客の受入機能確保を図った。更に、年間を通じて施設を有効に活用し、賑わいを創出するため、クルーズターミナル内にはレストランや屋根付き展望デッキ及び金沢港の全貌が見渡せるセミナールームを設け子どもたちの学習の場などに活用できるようにしたほか、ターミナル前には岸壁のエプロンと一体となった利用が可能な広場の整備などを行った。

本事業では、これらを一体的に行うことで、無量寺ふ頭の機能強化及び新たな賑わいを創出することとした。

3. 事業の成果

令和2年6月にオープンしたクルーズターミナルの来場者は、クルーズ船の寄港の多くがキャンセルとなる中、多彩なイベントが開催され、令和3年12月に100万人を超えるなど、金沢港の新たな賑わいの拠点となっている。



イベントによる賑わい状況

4. おわりに

金沢港は昭和45年11月に開港し、令和2年11月に開港50周年を迎えた。

今後はクルーズ船寄港時の送迎など、完成した施設をより一層活用し、賑わいの創出につながるような取り組みを継続することで、地域の活性化に寄与したい。

賛助会員 東洋建設(株)、五洋建設(株)、あおみ建設(株)、若築建設(株)、
みらい建設工業(株)、(株)大本組、いであ(株)、パシフィックコンサルタンツ(株)